

これは、夜間や休日の目安です。平日の昼間の場合は早めに受診しましょう。

吐いたとき

乳児の場合 ……ダラダラ、ゲブツと吐いたあと、ケロリとしている場合には心配ありません。

幼児の場合 ……風邪や胃腸炎のときは吐きやすくなります。単に吐くだけでは急を要することは少ないので、他の症状に注意しましょう。

- ☐ 吐いたあと、ケロリとしている
- ☐ 水分がとれる
- ☐ 下痢や熱がなく、元気である

自宅で様子を見ましょう！
翌日、かかりつけ医へ

- ☐ 何度も吐く
- ☐ 吐いた物に血液や胆汁(緑色)が混ざる
- ☐ ぐったりしている、眠ってばかりいるなど、いつもと様子が違う
- ☐ 脱水症状がみられる
- ☐ 頭を強く痛がる
- ☐ 腹痛がひどい(痛そうに泣いている)

ひとつでもあてはまるときは
かかりつけ医へ

不在の場合は、

- 日曜・祝日(9時～17時)…… **日曜祝日在宅当番医へ**
- 夜間(19時～22時)… **日南市初期夜間急病センターへ** (☎0987-23-9999)

※日曜・祝日は6カ月未満児の対応もできます。

※平日は、6カ月未満児の対応ができないため、県立日南病院(☎0987-23-3111)にご相談ください。



ワンポイントアドバイス



家庭で対処すること

- 吐き気の強いときに食事をするとかえって吐いてしまうため、30分～2時間は様子を見ましょう。
- 嘔吐の間隔があいたら、イオン飲料水を少しずつ多めに数回与えます。
(嘔吐により脱水になりやすいので、注意してください。)
- 胃腸を休めるために、固形物は与えないでください。

注意すること

- 牛乳、乳製品、炭酸飲料、かんきつ類(みかんなど)の果汁などは避けましょう。
- 吐いたものを肺に吸い込んだりしないように、寝ているときは体や顔を横に向けましょう。
- 吐いたものを始末したら、よく手を洗ってください。